

住民主体の支え合い活動の推進と必要性について学びました！

開催内容

※第1層：大崎市全域 第2層：地域自治組織単位

- ・講師に仙台白百合女子大学人間学部准教授の志水田鶴子氏をお招きし、住民主体の支え合い活動の推進のために必要なことを講演いただきました。
- ・第1層構成員である大崎市社会福祉協議会より、令和4年7月15日からの大雨災害時の事例から見えてきた、日常からの支え合いの必要性について話題提供をいただきました。

【講演】住民主体の支え合い活動を推進するには？

- ・支え合いの仕組みづくりは、「誰かのため」だけだと長続きしない。いつまでも住み慣れた地域で暮らしていくためには、「自分のため」にも必要なものと捉えると活動が長続きしやすい。
- ・高齢者のフレイルは一見、弱くなる一方だと思われがちだが、実は可逆性があり、回復する可能性がある。本人も周りの人もあきらめないこと。
- ・初めて取り組むことは分からないのが当たり前である。みんなが知恵を絞り、トライアンドエラーでまずやってみることが大事である。



【話題提供】災害から地域を守るために～日常からの地域支え合いの必要性～

- ・被災からの生活再建はまずは自分たちで行い、次に地域の支え合い⇒ボランティア⇒専門の支援団体の支援の順になる。災害ボランティアセンターでは高齢者世帯を中心にニーズとボランティアのマッチングをしている。
- ・災害時の教訓を活かし、日常からの支え合いの仕組みづくりの重要性を認識しながら具体的に実際に行動を起こしていかなければならない。

